様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24　年　5　月　11　日現在

機関番号：33807
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2009～2011
課題番号：21720323
研究課題名（和文）トルコ地方小都市、世俗主義とイスラームのはざまの＜社会＞：震災復興の経験から
研究課題名（英文）The formation of <the social> between secularism and Islamism in provincial cities in Turkey
研究代表者
木村 周平　　（Kimura Shuhei）
富士常葉大学・大学院環境防災研究科・准教授
研究者番号：10512246

研究成果の概要（和文）：本研究では、トルコ共和国において 1992 年に発生したエルジンジャン地震、1999 年のコジャエリ地震からの復興に関する比較調査を行った。トルコにおいて復興から防災へというフェーズにおいての市民社会的な活動を取り巻く宗教や政治の地域的な編成について、①1990 年代のトルコにおける市民の互助的な支援活動の展開および組織化、②行政のイニシアティブと市民参加の不十分さ、③科学技術と矛盾しない形で市民の活動を支える宗教的なもの、のありようを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This study conducted intensive field research on disaster reconstruction of provincial cities in Turkey and explored the relationship among the civil society, public sector and religious awareness.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
平成 21 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
平成 22 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
平成 23 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学
キーワード：イスラーム、トルコ、世俗主義、社会、震災

１．研究開始当初の背景

世界的な政治経済状況の急激な変化のなか、トルコ共和国は世俗主義という国是とイスラームの緊張関係の点で注目を集めている。そこでの一つの課題は、研究の集中するイスタンブルではなく、国土の大部分を占めるアナトリアで暮らす人々がこの問題とどう関わっているかを理解することにある。

２．研究の目的

地方都市における市民社会の動きを捉え、そこから政治・社会・宗教の関係を再考することを目的とする。その際、トルコにおける市民社会の発達の重要な契機が自然災害への対応であった点に着目し、1990 年代に起きた地震の被災地である二つの地方小都市を対象とし、比較検討することで、1990 年代から現在にかけての地方都市の状況を明らかにする。

３．研究の方法

現地でのフィールド調査および資料収集と、国内における文献研究と調査データの集約・分析を行う。

４．研究成果

(1) エルジンジャン市での災害復興の聞き取り調査および資料収集によって、①1992 年の地震後の復興過程における市民同士の助

け合い、②赤新月社やアマチュア無線グループなどのNGOの持続的な活動、③行政のリーダーの強いイニシアティブ、④地震が断食月の礼拝中に起きたことによる宗教的な意味づけ、⑤1939年の大震災も含め、大きな被害を受けていることによる防災意識の高まり（特に建物の建築制限の順守に表れている）が明らかになった。

（2）コジャエリ市での災害復興の聞き取り調査によって、①1999年の地震後の復興過程における親族ネットワークの強さと人々の移動性の高さ、②マハレ防災ボランティアなどのネットワーク型の市民活動の現れ、③行政に対する不信感にもとづく市民活動の高まり、復興の行政主導による住民不在③それと矛盾しない宗教的意識、⑤都市・工業地域であることによる建築制限の困難さと人の移動の激しさによる災害の忘却、が明らかになった。

（3）以上の調査に基づいて行ったギョルジュクおよびエルジンジャン市の状況の比較を通じて、①1990年代のトルコにおける市民の互助的な支援活動の展開および組織化、②行政のイニシアティブと市民参加の不十分さ、③科学技術と矛盾しない形で市民の活動を支える宗教的なもの、のありようが明らかになった。

（4）さらに、ギョルジュク市で活動する団体と関連する、イスタンブルにおいて防災に関する活動を行う団体についての調査を通じて、防災市民活動の継続が抱える諸問題や、それに対しどのように対応がなされているか、というローカルな解決策のあり方も明らかになった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計７件）

① 木村周平、2011、「防災の公共性はいかに維持されるか：トルコにおける公共性をめぐる論理と実践の一事例」『アジア経済』52巻4号、pp.36-59.査読あり。

② 木村周平、2010、「サステナブルな文化資源としての記憶？：トルコにおける地震の記憶から」『国立歴史民俗博物館研究報告』第156集、pp.39-56. 査読あり。

③ 木村周平、「都市に（が）居座ること：都市の人類学に向けて」『文化人類学』75巻2号、pp.181-191.査読あり。

④ 木村周平、「イスタンブル、耐震都市再開発プロジェクトの時間性：都市変容の人類学に向けて」『文化人類学』75巻2号、pp.261-283.査読あり。

⑤ 市野澤潤平、木村周平、清水展、林勲男「東日本大震災によせて」（資料と通信）『文化人類学』76巻1号、pp.112-116.査読あり。

⑥ 木村周平、2011、「トルコ大地震」『季刊民族学』138号、pp.78-82。査読なし。

⑦ 木村周平、2011、「文化人類学の立場から」『災害情報』9:26-27.（特集「災害情報研究に一言 －関連研究領域からの提言－」）依頼原稿。

〔学会発表〕（計14件）

① Kimura Shuhei, 2012.3.11 Between Hope and Nostalgia: Notes on the Post-3.11 Reconstruction Process in a Coastal Town. The conference "Japan's Earthquake and Tsunami One Year Later: How Can We Bring the Closure to Crises", East Asia Program, Cornell University.

② 木村周平、2011.11.26「エスノグラフィが教える”災害に巻き込まれたらどうなるか？”」日本文化人類学会主催公開シンポジウム『人類学の社会的貢献：ビジネス、災害、地域連携』(於：静岡県立大学)

③ Kimura, Shuhei, 2011.9.8 "Can you hear my voice?: Neighborhood Disaster Volunteers (MAG) and logic of disaster as a public issue", the session on Formation of "the public" in Turkey, 6th International Cultural Studies Conference: Space and Culture, Kadir Haş Üniversitesi, İstanbul, Turkey.

④ 木村周平、2011.9.10（欠席のため小林誠（首都大学東京大学院博士課程）代読）"On public use of anthropological knowledge: A Lesson from the East Japan Earthquake", the session on The Public Anthropology of Disaster: East Japan Great Earthquake, AEAA 2011, The National Museum of Ethnology, Osaka.

⑤ Kimura Shuhei, 2011.8.4 "On anthropological expertise in a post-disaster situation" Roundtable on Anthropology of Disaster, SEAA 2011, Jeonju, Korea.

⑥ Kimura Shuhei, 2011.4.24 "What can anthropologists do?" Special Session "Discussion on Disaster Anthropology: Views on the Tohoku Disaster", Anthropology of Japan in Japan 2011 Spring Workshop. (於：金沢市石川四高記念文化交流会館)

⑦ Kimura Shuhei, 2010.1.7 "Memorizing Earthquakes: A comparative study of commemoration in Turkey and Taiwan" The 5th Kyoto University Southeast Asia Forum: Conference of the Earth and Space Sciences, Campus Center ITB, Bandung, Indonesia.

⑧ 木村周平、2010.12.23「災害エスノグラフィー：行政の災害対応を支援する質的研究」第124回日本社会情報学会（JASI）定例研究会（於：東京大学駒場キャンパス）

⑨ 木村周平、2010.10.30「都市計画、不安、人類学（者）：トルコ、イスタンブルの耐震都市計画の事例から」第9回九州人類学研究会オータムセミナー（於：サンビレッジ茜）

⑩ Kimura Shuhei, 2010.8.26 "Between earthquakes and fake-quakes: Noises, Networks and Natures in Turkish Seismological Observation" the Joint 4S/JSSTS Meeting, University of Tokyo.

⑪ 木村周平、2010.6.4「トルコ・エルジンジャン市における震災復興の経験」地域安全学会第26回研究発表会（於：大船渡市民文化会館）

⑫ Kimura Shuhei, 2009.11.24 "Future earthquakes in Turkey and Japan: Nation, Earth Science, and Risky Future" The Asia Pacific STS Network Conference at Griffith University, Brisbane, Australia.

⑬ 木村周平、2009.5.30「トルコ、イスタンブルにおける耐震都市計画をめぐって」第43回日本文化人類学会研究大会　分科会「都市のオブデュラシー」(代表：木村周平)（於：大阪国際交流センター）

⑭ 木村周平、2009.5.17「1939年エルジンジャン地震（トルコ）とその帰結：地震の社会史」日本地球惑星科学連合2008年大会（於：幕張メッセ）

〔図書〕（計4件）

① 速水洋子、西真如、木村周平（編）2012『人間圏の再構築：熱帯社会の潜在力』（講座　生存基盤論　第3巻）京都大学学術出版会。

② 木村周平、2011　「『揺れ』について：地震と社会をめぐる実験・批判・関係性」春日直樹（編）『現実批判の人類学』世界思想社、pp.121-140。

③ 木村周平、2010　「われわれの＜つながり＞：都市震災を通じた人間圏から生存基盤への再編成」『地球圏・生命圏・人間圏：持続的な生存基盤を求めて』杉原薫・川井秀一・河野泰之・田辺明生（編）京都大学学術出版会、pp.337-364。

④ 木村周平、2009　「希望の過去、幻想の未来：想像力のリアリティ」『経済からの脱出』織田竜也・深田淳太郎（編）、春風社、pp.57-81。

〔産業財産権〕

○出願状況（計0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

以下の個人ウェブサイトで関連する業績や、調査内容等について紹介している。

https://sites.google.com/site/shuheikimuraswebsite/

６．研究組織

(1)研究代表者
木村周平　(Kimura Shuhei)

研究者番号：10512246

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：